

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アプリ児童デイサービス川崎諏訪2号館		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 8日 ～ 2025年 1月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2024年 12月 10日 ～ 2024年 12月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・お子様が主体的に活動する療育プログラムをご提供しています	・アプリ2号館に集まるお子様全員の「秘密基地～自主運営」というコンセプトの下、プログラムの企画、計画、実行をお子様主体ですめられるプログラムの設計となっています。ルールもお子様話し合って決めて実践しており、お子様ご自身の「体験・経験」「思考過程」を育む自立支援を実践しています	・ご利用者様であるお子様のご希望、障害特性、暮らし、またご家族様のご希望、心情について、正しく理解し、ご本人様、ご家族様にフィットした療育サービスをご提供するための知識、情報のより多くの学びを継続します。正しい知識、多くの情報を持つことにより、スタッフが健康で元気で、より良い働き方を推進し、お子様との時間に最高のパフォーマンスで臨めるように取り組みます
2	・スタッフ一人一人が自由な着想でスピード感を持って、プログラムの作成、実施、サービスのご提供を行うことが出来ます	・「OODALOOP」の行動様式を用いて、よく観察を行い、企画、まずは実施、検証、着想からスピード感を持って、サービスのご提供を行うことが出来、スタッフ一人一人が自由に行動できる仕組み、チームの構築を行っています	・「OODALOOP」で実践した内容について、PDCAサイクルにて計画、実行、観察・検証を行い、さらに発展的に品質の高いプログラムの作成、サービスのご提供を目指す仕組みを構築、実践してまいります
3	・療育プログラム、サービス提供について、チームアプローチで行っています	・日々全スタッフによるモニタリング、記録を実施 ・療育チームで定期的にMTGを行い、情報共有、プログラムの作成を行っています ・同性介助を徹底し、情報共有、サービス提供について、話し合いの上進めています	・児発管より指示書、療育担当者より支援プログラムについての手順書を作成。プログラムの品質向上、より良いサービスのご提供の向上のため、必要な情報共有ツールを常にブラッシュアップし、より良い仕組みを構築します

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の規準、品質向上、維持の標準化をすすめる仕組みの構築	・自由度が高いため、施設の基準、標準が曖昧なことがあり、一貫性のないご対応になる事があるので、施設としての基準を明確にし、プログラム、サービスのご提供の品質の向上、維持を図る仕組みの構築が必要です	・施設長を中心とした運営チームでMTGを毎週実施、店舗運営についての細かい課題を抽出し、社員MTG、スタッフMTGにて、規準、標準化について話し合いの下、設定、実施、検証しすすめます。施設の規準が明確であり、品質向上、維持の標準化された仕組みにより、営業時間中にお子様へ全スタッフが最高のパフォーマンスが自由に行えるように構築します
2			
3			